

イージス・アショアの配備に係る 適地調査等の結果について（回答） 概要

令和元年12月

防衛省

回答文書について（概要）

電波環境調査関係

問 （電波は大気中の水分、山などの遮蔽となる地形等により減衰するとの説明であるが、イージス・アショアのレーダー波は）特殊な気象条件下、あるいは、地形によって電波の放射方向が一箇所に集中することなどが要因となり、実際の電波の影響が机上計算値を上回ることはないのか。

（答）

豪雨や豪雪等の**特殊な気象条件下では**、大量の雨や雪によって電波が減衰することとなり、また、地面に当たった電波は分散するため、複数の反射波が特定の地点に集中することはなく、**実測値が机上計算値を上回ることはない。**

問 イージス・アショアのレーダーに関する「安全な区域」（人体に対する保安距離230m）を求めめるための計算式のうち、レーダーに供給する最大電力の時間平均値（P）、アンテナ利得（G）及び電力指向性係数（ D_0 ）のそれぞれの値を示されたい。

（答）

お尋ねの値については、**イージス・アショアのレーダーの具体的な性能を示すもの**であることから、**お示しすることはできない。**地元の皆様にご理解いただく一助となるよう、各値の積をお示しているところ。

回答文書について（概要）

活断層関係

問 演習場の直下に活断層がないことは確認されているが、レーダーや垂直発射装置（VLS）等の施設については、どのような耐震措置を施すのか。

（答）

関係法令等に基づく耐震基準を満たした上で、施設の重要性を考慮し、**建物の構造である柱、梁などの骨組みを強化する**（例：コンクリートの強度を高め、鉄筋の本数を増やす）などの**耐震性を向上させる設計等を行う**。こうした耐震性を確保して整備する自衛隊施設については、大規模地震（阪神・淡路大震災クラス、震度6強～7に達する程度）で倒壊・崩壊することはない。

安全・安心のための具体的措置関係

問 迎撃ミサイルの飛行経路をコントロールし、ブースターを演習場内に落下させるための措置を講じるとされているが、ブースターの落下位置を計算の上、迎撃ミサイルの発射を正確に制御することは可能なのか。

（答）

迎撃ミサイル発射直前の、むつみ演習場上空の風向・風速を把握し、ブースターの落下位置を計算の上、迎撃ミサイルの発射を正確に制御することは可能。

現状、想定されるあらゆる風向・風速条件でも、設定した落下区域内にブースターを落下させることが可能となる条件をあらかじめ計算・把握し、システム化しておく。実際に迎撃ミサイルを発射する場合には、むつみ演習場上空の風向・風速を計測し、上記の計算結果を組み込んだシステムによって、ブースターを演習場内に落下させることが可能となる条件を速やかに導出する。

回答文書について（概要）

安全・安心のための具体的措置関係

問 レーダー等の冷却水は、循環させて使用した後、貯水池や湧水に排出しないとされているが、どのように取り扱われるのか。

(答)

循環させて一定期間使用したのち新しいものと入れ替えるが、使用済み冷却水は、成分を調査し、廃棄物として処理するなど、適切に処理を行う。

問 浄化槽や油分離槽で処理された水は、湧水や貯水池に放流しないとされているが、どのように取り扱われるのか。

(答)

周辺の汚水処理施設などと同様に処理水は河川に流すことになると考えているが、今後、河川管理者等と協議の上、決定する。